

第10回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

- | | | |
|--------|--|-------------|
| 1. 日 時 | 平成26年11月11日 (火) | 18:30~19:45 |
| 2. 会 場 | エコセンター2000 | 3階 学習室C |
| 3. 出席者 | 長澤座長、久田副座長、服部委員、本間 (典) 委員、高橋委員、
本間 (文) 委員、田上委員、深川委員 | |

(岩永次長)

それでは、時間となりましたので第10回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催させていただきます。本日は大変お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。この懇談会ですが、当初10月21日に予定しておりましたけれども出席が難しいという委員さんたちが多く再調整させていただきました。お忙しいところ日程調整をしていただいたにも関わらず日程が変更となりましたことを、みなさんにご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げたいと思います。

それでは、ここからの議事進行につきましては長澤座長にお願いをいたします。

(長澤座長)

大変お忙しい中お疲れ様でございます。本日の懇談会に関しましては、前回、6月25日に開催した懇談会でみなさんから様々なご意見がありましたけれども、網走市、大空町それぞれの関係部署で検討いただいておりますので、早速、次第に沿って進めさせていただきます。

議事の一つ目、網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの改訂(案)について、早速、事務局の方から説明をよろしく申し上げます。

(岩永次長)

それでは、網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの改訂(案)につきまして、説明させていただきます。事前に資料を配布させていただいておりますので、簡単に説明させていただきますが、前回の懇談会で既に修正案として記載していた箇所につきましては朱書き、赤文字で記載しております。また、今回新たに修正を加えましたところを青文字で記載しております。

また、前回の懇談会でご指摘いただいた内容、3点ございますが、これにつきましては、対応状況と併せてA3横の一覧表としてまとめてございます。

それでは1点目、空港や高速道路網の整備についてビジョンに記載してはどうかとのご意見でしたが、高速道路網の早期整備の必要性につきましては、事務局としても強く認識しているところであります。オホーツク圏活性化期成会という組織がござい

ますが、その組織を通じ、国や道に要望しているところです。

本ビジョンにつきましては、網走市・大空町の圏域の中で行うべき事業等の指針となるものでございますので、高速道路網の整備につきましては、オホーツク圏や北海道全体の課題という理解の点からビジョンへの記載を見送ることとしたいと考えております。

2点目ですが、女満別空港の活用や、利用しやすい空港となるように検討を進めるべきとの内容ですが、現在、網走市・大空町を含む空港近隣自治体で構成される「女満別空港整備・利用促進協議会」、それから「女満別空港国際チャーター便誘致協議会」などで利用促進やチャーター便の誘致などに努めているところでございます。

今後とも両協議会において、周辺市町村や経済界などと連携し、利用促進に努めてまいりたいと考えてございます。

最後、3点目でございますが、懇談会の資料送付時に前回の懇談会の概要がわかる資料を添付してほしいということでございました。今回から、前回懇談会の概要を添付させていただいております。お手元のこの資料になります。

このほか、各統計数値につきましては、既に修正している箇所、先ほど申し上げたとおり朱書き、修正予定の箇所、具体的には11ページの観光分野でございますけれども青文字で示してございます。

(長澤座長)

事務局から共生ビジョンの改訂案につきまして説明いただきました。

前回懇談会の確認等も含めまして、質問がございましたらどうぞよろしく願います。

深川委員いかがですか。前回、空港の整備とか利活用についてご発言がありました。今回、見送ると言いますか、ビジョンそのものは事業予算の制約もございまして、全てここに盛り込むというわけではなく、期成会その他しかるべきところで取り組むと、ここに盛り込めば当然予算経費的に計上しなければならないという制約もございまして。

ということで高速道路網の問題や空港の利活用についてはこういった形で対応したいということですがよろしいでしょうか。やらないとかやるとかいう話ではなくて、この事業（ビジョン）の中では見送るということ、当然しかるべきところできちっとやるということによろしいでしょうか。ありがとうございました。

続きまして、「共生ビジョン実施事業に係る決算状況及び成果」について、事務局から説明をお願いします。

(岩永次長)

それでは、「共生ビジョン実施事業に係る決算状況及び成果」についてご説明をさせていただきます。こちらにつきましては、お手元の資料2をご覧くださいと思

います。

ここでは主なものとして金額で百万円かつ対事業費20%以上の乖離が発生している事業につきましてまず網走市分から説明させていただきます。

4ページになります。「廃棄物処理施設整備事業」でございますが、こちらはごみ処理施設の基本設計を行うという事業になりますが、地質調査と防災工事の実施設計を追加で行ったことにより事業費が増加したというものでございます。

次は5ページ、一番下になります「地域子育て支援センター運営事業」です。

こちらは賃金と需用費の支出が見込みより少なくなったことにより事業費が減少したという内容になっております。

次、1枚めくっていただいて7ページの一番上、「ものづくり総合支援事業」ですが、こちらは新製品の開発や事業のスタートアップへの助成などを行う事業ですけれども、見込みより申請件数が少なかったため事業費が減少したというものでございます。

続きまして、その下3段目「農業担い手育成事業」でございますが、こちらは新規就農者への支援や農業経営者への研修などを行う事業ですが、新たに青年就農給付金の受給対象者が増え、ご夫婦1組ですが、このため事業費が増加したということになっています。

続きまして8ページ、上から3番目になりますが、「生活交通路線維持対策事業」です。こちらは生活バス路線維持のため、運行費用の赤字の一部を補てんする事業ですが、利用乗客数が想定よりも多く、赤字が少なかったため事業費が減少したという内容になってございます。

網走市の最後になりますが、同じ8ページになります、「地域公共交通調査・検討事業」です。

こちらは、市内公共交通の利便性向上のため、実証実験としてコミュニティバス、事前予約型乗り合いタクシーの運行を行ったものです。地域との協議において、天都山という地区の実証運行を行いませんでした。このため事業費が減少したものです。

網走市からは以上です。

(林参事)

大空町の林でございます。私の方から大空町分について説明させていただきます。

同じ資料の2ページをご覧くださいと思います。下から4行目でございます「空港対策費」ですが、こちらにつきましては、航空会社が新規路線の開設や既存路線における増便または運航機材の大型化などを行う場合に必要な支援を行っていくものでございますが、当初予定数に達しなかったため減少になったところです。

続きまして、資料の5ページをお開き願います。下から4行目「災害対策事務費」ですが、こちらにつきましては、災害対策の必要備品としまして平成25年度に非常用の発電機を導入したところですが、入札執行減により減少となったものでござい

す。

続きまして6ページをご覧くださいと思います。一番上「保育所広域入所事業」でございます。

この事業につきましては、里帰り出産などにおきまして住所を移さずに他の市町村の保育所に入所することができるという制度でございますが、平成25年度につきましては希望者がいなかったため実績なしとなったところでございます。

以上でございます。

(長澤座長)

資料に基づき説明がありましたが、百万円かつ事業との乖離が20%以上あるものとして、網走市から6件、大空町から3件のご説明がありました。

続いて第5章の関係について事務局からご説明をお願いします。

(岩永次長)

それでは、ビジョン改訂案の37ページです。

網走市の方からご説明させていただきますが、ビジョン第5章に具体的な事業を掲載させていただいています。平成26年度以降の事業計画額につきまして、決算と同様に金額で百万円かつ20%以上の変動が発生している事業につきまして説明させていただきます。

1つ目は37ページの「1地域センター病院・地域基幹病院等支援事業」の2番目「公的医療機関支援事業」です。こちらは地域センター病院である網走厚生病院の結核病床などへ助成をする事業です。診療報酬の単価の改正がございまして事業費が増加したというものでございます。

次に39ページをお開きいただきしたいと思います。「6国内・外国人観光客誘致事業」の一番上「外国人観光客誘致対策プロモーション事業」でございますが、こちらは、海外でのプロモーション、それからチャーター便の誘致などを行う事業ですが、今年度、JTB北海道の企画で、網走をはじめとする道内各地を巡る「東南アジアウルトラクイズ」というものが開催される予定となっております、その開催地負担金が増加の要因となっております。

同じく、3つ下がっていただきますと「女満別空港観光客利用促進事業」がありますが、こちらは、女満別空港を利用した旅行商品の造成への助成、それからPR記事の掲載を行う事業となっております。今年度からの新規事業ということで計画額の増となっております。

めくっていただきまして41ページをご覧くださいと思いますが、「8イベント開催情報等情報共有事業」の一番上、「オホーツク・文化交流センター芸術文化事業」です。こちらは舞台鑑賞など市民が芸術に触れる機会を提供するほか、網走市ゆかりのアーティストをお招きし公演を行う事業となっております。この網走市ゆかりの

アーティストをお招きする事業が平成25年度から始まり、開催は隔年で行われるということになったため計画額の増減が生じているものでございます。

続きまして43ページをお開きいただきたいと思います。「11廃棄物処理施設の広域化検討事業」の一番上、「廃棄物処理施設整備事業」です。

平成26年度に予定しておりました施設の建設が一年先送りとなって平成27年度となりました。また、建設地が確定したため、今年度、用地取得費用を追加計上したことから乖離が生じたという内容になっております。

続きまして44ページをお開きいただきたいと思います。「14災害時相互応援体制整備事業」の一番上、「防災諸費」でございます。

こちらは、防災備品の整備や災害時の協力体制を構築する事業です。冬期間の停電対策のため小中学校などの避難所に発電機、暖房器具等の整備を行うこととしたため事業費が増加してございます。

次に47ページをご覧くださいと思います。「18新製品の開発・支援、販路拡大促進事業」の下から4番目「農業担い手育成事業」でございますが、事業内容は先ほどご説明したとおりですが、青年就農給付金の受給予定者が平成26年度にご夫婦1組、単身者1名、平成27年度には単身者4名が増加したため計画額も増加しているということでございます。

次は51ページをご覧くださいと思います。「22文化スポーツ合宿誘致とイベント開催の情報共有事業」の真ん中あたりになりますが、「網走オホーツク流氷まつり補助金」です。こちらはまつり会場の設備の老朽化、それから拡張作業に関わって設備費を見込んでいるため計画額が増加しているということでございます。

最後、一番後ろのページ52ページでございます。「23産学官連携推進事業」、「東京農業大学との連携」でございますが、こちらは、東京農業大学で実施をしております「オホーツクものづくり・ビジネス地域創成塾」を中心とした産学官の連携を図る事業でございますが、当創成塾について平成25年度で文部科学省の助成が終了いたしました。そのため、今年度限りとして運営費の助成を計上したものです。

なお、来年度以降につきましては、東京農業大学において文部科学省の別の補助事業の採択に向けてさらに調整をされると伺っております。

網走からは以上です。

(林参事)

続きまして、大空町分でございます。同じ資料の37ページをお開き願います。下から2行目になりますが、「東藻琴診療所管理運営費」でございます。東藻琴診療所の運営に必要な医療用備品の購入が平成25年度で一区切りついたために平成26年以降減少するものであります。

続きまして39ページをお開き願います。こちら下から2行目になりますが、「観光振興一般事務費」でございます。平成26年度の事業費が増加しているところでご

ざいますが、これにつきましては、観光案内看板の設置、また、大空町のゆるキャラの作成に要した事業費が増加したところによるものでございます。

その下、39ページの一番下に「空港対策費」がござりますが、こちらにつきましては、女満別空港の利用促進に向けました取組を拡充したことによる増加でござりますが、具体的には路線のPRやさらなる誘客の促進をしていくためのプロモーション活動を行っていくものでございます。

続きまして、ページが飛びまして44ページをご覧ください。上から3行目でございます。「網走地区消防組合負担金」でございます。平成25年度に消防・救急無線につきましては、従来のアナログ方式からデジタル方式に移行することとしまして、機器などの整備を行ったところでございます。この財源につきましては起債、借入を発行いたしまして対応に当たったところでござりますが、その返済に要する経費が平成26年度から増加したことによる増でございます。

同じく44ページ、下から2行目でございますが、「災害対策事務費」ですが、こちらにつきましては、防災対策について必要な備品の整備等をしたものであります。助成金を活用するなどして整備をしていきまして、内容を精査したことによる減少でございます。

続きまして45ページの上から3行目「保育所広域入所事業」でございます。こちらにつきましては、先ほど決算状況において説明をさせていただきました制度の対応でございますが、里帰り出産などによって他の市町村の保育所に入所する場合の支援制度でございますが、事業実績を勘案いたしまして減少としているところでございます。

続きまして、51ページをお開き願います。下から4行目でございますが、「芝桜まつり実行委員会交付金」です。こちらにつきましては平成25年度に30周年記念事業として増額して実施したところでありますが、一部事業費を縮小するものの継続して実施するために必要な支援を行うものとして増加としているものです。

大空町分は以上でございます。

(岩永次長)

ここまで、「共生ビジョン実施事業に係る決算状況及び成果」とそれに関連した事業計画額の変更につきましてご説明させていただきました。その他事業も含めまして、ご不明な点がございましたらご質問いただければと思います。

(長澤座長)

ただいま事務局の方から共生ビジョン事業実施に係る決算状況及び成果とそれに関連します事業計画額の変更につきまして説明がございました。確認ないしはご質問等ございましたらよろしくお願ひします。

だいたい実情に即して変更されていることだろうと思ひますけれども、決算と成果、

ビジョン事業の計画額に関する変更です。

事業計画額の変更について自治体から説明がありましたが、それ以外の事業に関して、その他関連する事業に関してございましたらご質問をお願いします。

(久田委員)

遅れてきて申し訳ありません。執行されなく少なかった理由、「空港対策費」ですとか、平成25年、平成26年の乖離は読めることではないのかと思いますが。空港の大型便の促進などはある程度わかっているのではないかという感じがします。感想になります。すいません。

一つ、遅れてきて申し訳ありませんが、子どもの医療について、大空町と網走市の差はどこにありますか。差はないのですか。無料化とか。

(岩永次長)

特徴的なところを申し上げたいと思いますが、網走市は就学前の子どもに対する医療費無償化というものは行っていないというのがベースです。ただし、入院に係るものについては助成をするという考え方です。

というのは網走市医師会からの要請でもありますが、幼児の医療費を無償化してしまうと軽傷なうちに病院にかかるという傾向が非常に強いと、そうなりますと特に救急で本当に重篤な子どもさん達が後回しにされてしまうという、なかなかすぐに診てもらえないという状況が生まれるので、それは政策としていかがかという指摘をされていきました。網走市としてはお医者さんに負担がかからない入院だけ助成するということで政策を作っています。

(林参事)

大空町につきましては、小学生まで医療費の支援がありますけれども、今年度から拡充しまして、中学生までを対象として支援を実施しているところであります。

(久田委員)

無料ということですか。

(林参事)

通院とか入院など色々区分がございまして、中学生は通院が無料です。

(久田委員)

入院は。

(林参事)

小学生が入院まで無料となっています。

(田上委員)

27年度予算というのは、ここに入っていますけど、確定ではないのですよね。というのは、来年、網走市でマラソン大会がありますので、そこへの支援を、まだ金額も固まっていないのですけれども、よろしくをお願いします。

(岩永次長)

27年度予算につきましては、ご指摘のとおりこれから予算編成に入りまして、網走市でいいますと1月くらいに大まかな方向性が出ます。3月議会の議決を経て正式に決定するということですが、網走市の予算編成の仕方としては5カ年先の予算の見込も財政、市長に示して財源の手当てをどうするのかということも含めて予算編成をしていきますので、このような形で示しております。最終的な決定は、今申し上げたとおりの手順で決定していきます。

(長澤座長)

この中には（網走マラソンの予算が）入っているわけではないのですか。

(岩永次長)

入っていません。

(長澤座長)

これはあくまでも定住自立圏共生ビジョンを実現させていくための予算手当ということなので、もちろん次年度どうするのかということはありません。

(深川委員)

網走市議会も大空町議会もそうですが、共生ビジョンで一体何をやっていてどういう結果を出しているのかが求められている。説得力がないというか、ここまで予算の増減が説明されて説得力がないというのは表示の仕方が悪いのか、PRの仕方が悪いのか、そのへんは今後に向けて課題だと思うので、例えばホームページに掲載したとしても平成26年のデータが出てない。早くて平成23年、平成24年あたりのデータしか出ていない。そのへんどうやってPRやっているのかなということを疑問に感じることもあります。

(岩永次長)

網走市の方からお答えしますが、網走市の市民への周知としてはホームページを使っているというのが一つです。それについては、前年度のものを示するというこ

とになっています。今、深川委員がおっしゃったように当市議会でも定住自立圏の成果についてどうなのかというのはかなりの頻度で質問されますが、説明としましては、この会議で何度も申し上げていますが、医療の関係、生活路線の関係などについてはこの枠組みがなければ成立しなかつたであろうということもありますし、かなり大きな成果と事務局も捉えていますし、質問いただいた議員の方もそうですねとお答になるのですが、それを利用しない方が圧倒的ということ、市民にとっても救急車を利用する人はごくわずか、生活路線についてもごくわずかの方なので、多くの市民にとって成果のあるものは見えづらいというご指摘をいただいています。

(長澤座長)

大空町はいかがでしょうか。

(林参事)

このような形でビジョンを作成していますが、成果としてどういったものが具体的に挙げられるのかという時になかなか分かりづらいという点でご質問があったと思いますが、具体的な成果を見せる部分については非常に、成果としてお見せできていないということでもありますし、住民に対してもそのようなPRができているのかということについては十分ではないのかなと感じているところでもあります。

この会議の内容につきましてはホームページなどを通じて議事録などの公開を行っているところですが、それが具体的に成果としてどのように表れているのかということについてはこれから検討を重ねながら行っていきたいと考えております。

(深川委員)

私も町議会議員という立場ですので、網走の市議の方からもそういった聞かれ方もしますし、私も大空町の検討委員会の委員でもありますので、私が説明できないということは困る。決して成果を早急に求めるということではありませんが、逆に何らかの形というか一般の人にわかりやすいようなアピールの仕方をしていかないとせっかくみなさんがやられているのに、もう少し上手く利用するというか、例えば予算の中で、共生ビジョンのアピールを含めた中で、含めた予算ですとか、そういった共生ビジョンの中からの予算ですということを少しでもアピールしていかないと、本会議のなかで共生ビジョンの成果というのは、行政側の答弁も含めて一切出てこない。そのへんをもう少しアピールしていかないと、今後に向けて、やっぱり一緒になってやっておけば良かったなと隣り近所の町から言われるような形で進めていってはどうかと思う。言うのは簡単ですが難しいことだとは思いますが。

(長澤座長)

大変重要な指摘で、やはり地域づくりの場でこういったものを含めた認知度と理解、

実際の利用度合いというかそういったものも含めてPRしていくと、議会とかそういったことを含めてありますけれども、そういう深川委員のご指摘ですけれども工夫を凝らして何らかの手を打って、可能ですか。

(岩永次長)

細かな説明を重ねていくことなのだろうなと思うのですが、例えば医療についても服部委員さんが詳しいと思いますが、自治体病院等広域化連携構想検討会議という予算のない事業ですが、そこで色々な成果を挙げていたり、例えばドクターヘリが飛ぶようになったとか、ここの議論の中から出てきていることなのですが、なかなかさっき言ったように一般的ではないということだとか、2つのまちの組織ではないものですから、そこを定住圏でやったとは言えずというか、そういうところもありますが、広域のもの、先ほど申し上げたとおり観光も特徴的にありますので、そういう中でも定住圏の枠組みの一部としてPRしていくということも必要かなと、今のご指摘を聞いて感じました。

(長澤座長)

この懇談会の持ち方というのものもあるでしょうし、色々な方々から色々ご意見を雑談的なものも含めて、そういう意味ではどこに落ち着くかいうところが見えてこない部分もあったかと思いますが、情報共有をしていく、分野を超えて、まさに異業種で情報共有ができる場でもある、そういうメリットもあるかと思います。

いずれにしても全体的なあり方としては、今後、平成27年度に向けて詰めていただきたいと思います。

(本間(文)委員)

50ページの「21移住促進体制強化事業」で、網走市が平成26年、27年で48万2千円。大空町もグリーン・ツーリズム推進事業が修正されているということで、人口減少でどんどん来てもらいたいとアピールするためにも網走の事業費が少ないのではないかと思います。それから大空町もやはり減らしているのは何故なのか。

(岩永次長)

移住促進ですが、網走市については、どこのまちもそうかもしれませんが、団塊の世代をターゲットにして進めてきました。60歳を過ぎたら少し余裕もあって、完全移住は無理でも2拠点居住だとかそういう趣向があるのではないかと進めていたのですが、実は、年金支給開始年齢のこともあり、案外60歳を過ぎてすぐではまだまだ働かなければならなくて、とても地元を離れるわけにはいかないということがわかってきたということがあります。

それともう一つは、年を取られた方にとっては医療環境の充実した都会に留まりたいという傾向があることもわかって、団塊の世代をターゲットにしたということについては軌道修正しないといけないということになりました。

ターゲットを団塊の世代としていた時は中京圏や関西圏にプロモーションに行く予算を持っていたのですが、それについては効果がないということになり、そこを少し削減していきつつ、商工の物産や観光展などで移住促進のパンフレットを配布していただくなど事務経費をぐっと圧縮するというような取組に変わってきているというのが予算額を見ると、そういう形になっているというのが実態です。

(長澤座長)

本間委員いかがですか。本間委員も移住されてきたのですよね。当時と今と大分状況が変わっている。大空町もグリーン・ツーリズム協議会を作ったり色々動きもあり、網走市もお年寄りがみえて民泊されて、アニメか何か、住宅建てるとか建築屋さんも含めて、そういったやり方の問題もあります。従来型のやり方だと。

(本間(文)委員)

空港も近くて日本で一番便利だと思います。環境もいい、空き家もある、ということでは、大空町でも季節的に、半年来たりする方もいますからもう少しアピールとかできないものかなと思う。

(長澤座長)

これ自体で人口減少を地域社会でどう食い止めるのかということになるのですが、先ほどおっしゃったように、富裕層を中心に、夏場こちらに来て冬は東南アジアに住むというケースもある。大変パターンが変わってきているので、従来のパターンにもう少し工夫を凝らすというか実情に即した事業の在り方について、仕切り直しをしないといけないと思います。それを予算面に反映させるということになると思います。

(久田委員)

平成23年に運営協議会か何かで移住促進でなんとか協議会だったんですけども、移住の方というのは全世界を見られている、全国を視野に入れて考えられているということを考えれば、我々が自分のところをすごくいいところだと言っても、その人たちはメニューはいっぱい持っている中の選択肢の一つ、もっとマーケットが広がらないと拾えないような、移住リストに載らない、こっちのアピールがこういうのもあると言っても、我々は日本全国調べていますからと言われて、確かに移住を希望されている方のマーケットが広がれば可能性が広がるという感じを受けましたが、今のマーケットの状態では、なかなか水準的に競争に打って出るのは難しいなというのが

その時の実感です。

(本間(典)委員)

先ほど(社会福祉協議会の?)理事をやられている方が横浜から来られていまして、そういう人たちの話で、やはり上手くマッチングというか、こちらに来ている人はすごく住みやすいと褒める。上手くそういう人たちに情報が届くという形はなかなか難しいのかなと、来てもらったら満足してこちらで生活している。

それ以外でも、たまたまボランティアをやっている人でも、奥さんが向こうに住んでいて旦那さんだけこっちが好きで夏場だけ来ているという人もいます。なかなかコアな人なのか、そういう人を何十人、何百人集めようとしたら大変難しいと思いますが、そういう少ない人にいかに情報を届けられるかが難しい。

(岩永次長)

長期滞在の方は、実際のところは、なかなか申し込みもないです。それはさっき言った理由もあるのですが、逆にリピーターの方がいて、そういった方たちに丁寧に対応することによって、その方たちの口コミで網走の良さとか、人柄の良さとかを知ってもらってつなげていくということしかないのかなと思っている。

先ほどおっしゃったようにSNSを使っても、他の自治体も同じように広告を打っていますので相殺してしまうような、選ぶのが大変なくらい情報量があるという感想を持っています。

(深川委員)

施設をたくさん作って、お年寄りをたくさん増やしてもいい。

(長澤座長)

農大の卒業生でも親がこちらに移住して、数多くないけどいます。何人か住んでいます。それ自体の仕掛けではなくて、別の仕掛けも作ってトータルで巻き込んでいくというようなことをしなければ、恐らくこちらに住んでほしいというだけではだめだと思う。

(本間(典)委員)

今週、自分の家の向かいの家も売りに出していたのが買われて挨拶にこられたのですが、農大の卒業生が網走に住んでいて、たまたまその両親が、結構値段の高いところでした。

(長澤座長)

どこから来たのですか。

(本間 (典) 委員)

会社は青山にあると言っていた。

(久田委員)

定住自立圏共生ビジョンというのは、結局のところ、網走もそうですが、人口減に対する対策を練らなければならないというものの中の自立圏ですので、本当にいいご指摘をいただいたと思う。あきらめずに、一緒にお互い頑張っていきましょうということ。

(本間 (典) 委員)

39ページの「外国人観光客誘致対策プロモーション事業」ですが、チャーター便だとかを女満別空港に呼ぶということを前からやっていますが、女満別に入ったお客さんは網走に留まることなく移動するのではないかということで、どちらかというところだと、釧路だとか帯広に入ったりしてこちらに流れてきた方が宿泊の可能性があると思うが、そのへんのところはどうか。

(田上委員)

だいたいチャーター便が入ると、一部を除いて札幌とか阿寒に流れる。今度の2月に、この間は中国の瀋陽に行きましたけど、タイからチャーター便が来る予定。

これからは地域の空港、釧路と女満別と紋別というようにしないと集まらない。一回きりだといいいのですが、2WAYとかだと、この前の瀋陽も一つは女満別に来て、もう一つは、帰りは札幌に寄って、札幌に行ったお客様を乗せて中国まで運ぶと、そういうことをしないと難しい。今はオホーツク圏とかそういう地域で話をしながらチャーター便を誘致している。

(岩永次長)

そのほかにも自治体単独でというか、いかに滞留していただけるかという体験型の観光メニューをどう作るかというのが一つポイントになっていると網走市の観光振興計画の中にも書かれていますが、その究極ではないですが、来年行われる網走マラソンは宿泊しないと参加できないという仕組みになっていますので、そういう体験型だとかスポーツ・ツーリズムだとかというあたりで、どれだけこの圏域に留まってもらえるかというのが一番大きな課題なのだろうなと思っています。

(本間 (典) 委員)

見るべきものがないと誰も寄ってくれない。

(田上委員)

国内の観光客は落ち着いてきて、今年の4月～10月が20%伸びてはいるのですが、バス代が全国的に上がったのですが、秋の時期に安く北海道を回りたい、北海道は綺麗ですよ。札幌とか函館の近辺は近くていいのですが、道東というのは、北海道は九州と四国を合わせるくらいの広さでありまして、一日で何百キロも走るとなるとバスの値段も高くなって、色々エージェントの人に聞いても、企画をしないとやっている。なのでこの秋から減ってくると思っている。ただ、網走の場合は、スポーツ合宿があって4月から9月までは前年比100%、厳密には102%なのですが、10月は少し落ちている。中国客が1割くらい落ちていて、阿寒なんかも減っている。こういうところもチャーター機が飛んでくれれば別にいいのですが、普通の国内路線で来ると割高になってちょっと難しい。

(本間(典)委員)

移動するなら、どこに行くのでも地元のバスを使ってもらえたらそれなりのお金が落ちると思います。

(田上委員)

宿泊は網走で35万人くらいあるのですが、そのうち外国人は3万、4万と1割くらい。そういう面では国内の観光客を呼ぶためのお金を使ってもいいのではないかと思う。4月からの宿泊者数8万2千人のうち8千人が、1割が外国人。冬になると宿泊者数が多くなりますが。

(久田委員)

同じ観光ですけれども、絶対数は国内ですが、我々含めて、外国人観光客はインパクトが大きく、凄く期待して目がそっちに行ってしまうのです。だけど実際は国内、9割が国内なので、おっしゃるとおり国内の掘り起こしが大切だと思う。

(服部委員)

私は元々本州の人間で、たまたま捕まったというか。私自信はこの気候や地域が合っている。気に入れば本州の人でも住める場所だと思います。

大空町は中央病院が一つしかないので偏りがあり、診療連携で網走厚生病院を中心となって色々な方を引き受けていただいているので、中央病院も成り立っている。

先ほど小児の問題も出てきましたが、うちの方では小児は引き受けていない。あまり来ないです。入院も全くない状態ですので、そんな関係で網走の医師会の方の援助を得てやっている。

どういうわけか今年から患者が大分減っています。やはり医師不足で、医師自体がここに留まる事を拒んでいるという感じで、常勤になりたがらない。

(久田委員)

今、女満別の常勤と非常勤の人数はどのくらいですか。

(服部委員)

常勤で3名。非常勤で9人くらい。週一とか週二、月一とかそういう非常勤で、助かっております。東京の方から、空港が近いから来てもらえる。朝の便で勤務に、ちょうど9時に間に合うように来る。

(長澤座長)

その日で帰られるのですか、日帰りできますものね。

(服部委員)

日帰りの方もいますし、一泊して2日診ていただける場合もある。

(深川委員)

中央病院に関しては高齢者にとっては本当にありがたい施設です。なかなか高齢者を受け入れてくれるところはないです、今は、本当に助かっています。

(服部委員)

若い方は網走の病院に行く。

(長澤座長)

高齢者は3カ月で一旦帰るのではないですか。うちも90歳になる両親を2人抱えていて大変です。

(深川委員)

難しい制度で大変です。

今月に入って、都内に行ったのですが、ほとんど外国の方です。若い女性なんかも夜中1時まで遊んでいました。まず8割9割日本語を話せない人で、ほとんどそうです。都内を見たら不景気なんて気はしないです。こういった形の中でなんとか、この気候のいい、網走を含めて。

前に、北海道で一番宿泊してもらえない観光地は小樽なのです。ちょっと話したこともあるのですが、泊めることをメインに考えるとリスクもあるのだそうです。だから泊ってもらえるような別のことを考える、ただそれが無いのだという話をしていましたけど、東藻琴の宿泊してもらえない状況というのは、初めから通過型と決めているものですから、その中から収益しようという考えではありますが難しいです。

(長澤座長)

あと何か関連する事業の関係でありますでしょうか。

(高橋委員)

し尿処理の関係ということで、網走市の支出は増えていないのだけれども大空町の支出が増えているのは施設か何かの改修でもあるのかということと、高齢者の買い物だとか教育の問題は両町の課題があると思います。なかなか難しい面もあると思いますがどのように進めたらいいのかなと、買い物難民や銀行に行くとかちょっとした移動距離がなかなか難しいのかなと、そのへんの社会福祉はどういったのが一番良いのかなと考えています。ボランティアなどで来ていただいたり。

(林参事)

し尿処理の関係につきましては、それぞれルールに基づきまして負担割合を毎年度算定しまして、計上しておりますが、変動の理由につきましては、施設の整備に係る費用負担等が大きく影響してきている部分であると思いますが、詳細な資料を持ち合わせていませんので具体的な内容についてお答えできないのですが、毎年度そのような形で負担割合を精査させていただきながらやっているところでございます。

(事務局 (杉村主査))

補足ですが、大変、手違いで申し訳ないのですが、関係部から聞き取りをしていた中で、昨年度に本来反映すべきところが一部反映されていなかったようで、平成24年度の決算額を掲載させていただいているのですが、担当課からの聞き取りで一部漏れがあったものですから、ワンテンポずれたので大きく変わっているように見えてくるのですが、先ほど参事から説明があったとおり、毎年度見直しをしている部分、同じように増えて、減ったりしている部分がありますので、申し訳ありませんがご理解いただければと思います。

(長澤座長)

高齢者の問題ですね。

(本間 (典) 委員)

将来的にはコンパクトシティというか、やるというのが効率的なんでしょう。やはり、その偏在性はすべてがそういうものが関わってくる。固まって住もうという。

(長澤座長)

この前、学生を連れて(下川町の)一の橋(地区)に行ったのですが、また、お年

寄りが近くに来てコミュニティが逆にできて、また、あのハウスで買い物難民用の事業もやっていますよね。

あのレベルだからできるのであって、網走全体となると。

一の橋地区は様変わりしている。環境省などから相当なお金が入っている。環境未来都市宣言とか、あの事業費がなくなったらどうやるのかは大変なことになる。そのために今、木の育苗とか色々な事業をやっている。それだって事業化になるかはこれからです。サンプルになる面白い町です。そのへんはこれからどうするか。

これは第10回（網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会で）、来年度、平成27年度もまた2回ですね。これを踏まえて。

色々な情報交換含めて、色々な分野からのご指摘・ご意見ございましたけれども、だいたいそのようなことでよろしいでしょうか。

では議事次第に即しまして、「その他」ですけれども、委員の方から何かございますか。

それでは事務局から。

（岩永次長）

共生ビジョンの変更時期について、ご案内をさせていただきたいと思います。今回の懇談会でいただきました非常に厳しいご意見ばかりでしたが、それぞれ網走市、大空町にて担当部局の方にも周知をさせていただいて、次年度以降の事業にできるだけ反映をさせていきたい、生かしていきたいと考えております。

また、共生ビジョンの改訂案につきましては、今回お示しをした内容を精査をした上で、平成27年1月、来年の1月を目途に変更を行う予定でございますので、ご承知置きいただきたいと思います。以上です。

（長澤座長）

それでは以上で終えたいと思います。今回は第10回の網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会でした。終わりたいと思います。

みなさんお忙しい中、長時間どうもありがとうございました。